



所在地 桐生市黒保根町水沼326
電話番号 0277-96-2808
所有者 宮澤 暁則 氏



～歴史を紡ぐ教育の原点～

常鑑寺と群馬県第二番小学校

明治政府は近代化を進めるため、国民教育の義務づけの必要性を重んじ、欧米諸国の学校制度を取り入れた学制を明治5年に公布した。

群馬県では、第一番小学校を前橋（厩橋学校）、第二番小学校を黒保根（水沼学校）、第三番小学校を中之条（原町学校）に開校している。

水沼の名主であった星野長太郎は、稼動したばかりの官営富岡製糸場でいち早く技術を学び、明治8年、輸入機械を購入し屋敷内に水沼製糸場を建設した。「瓦瀬組」という生糸組合をつくり、高品質の生糸生産は1年後には弟の新井領一朗が、ニューヨークに販売の拠点を作る勢いで発展していった。

また、教育の重要性を認識していた彼は学制施行の翌年2月に、星野家の菩提寺であった常鑑寺に寺子屋を開設している。

その後、小学校は明治9年に星野家の分家（現存の通称3階）に移り、3年後、黒峰神社前に新築される事となった。

唯一現存する第二番小学校は、93歳の当主・圭一郎氏の気概で、大風で吹き飛ばされた3階部分を補修し、破れた板戸を塞ぎながら、屋敷を囲む大木に守られるように存在している。学校として使われた板敷きの2階部分も健在である。

一方、寺子屋であった常鑑寺は、元龜2（1571）年に開山した。玉造の石段を上ると荘厳な本堂が目前に現れる。内部には北面に龍、東西に四天女、玄関正面に七福神が刻まれている。

丸山善太郎毎朝の作である梵鐘は、戦時中の供出を免れ、県指定重要文化財となっている。

黒保根町の自然の中に、教育の原点とも言える建物が共存し、そこに暮らす人々を優しく見守っているようである。



所在地 桐生市黒保根町水沼522
所有者 星野圭一郎 氏